

第1回 AI駆動開発の全体像 + 環境セットアップ

Phase 0 | 下地づくり / 講義2h + ワークショップ6h

この回のねらい

- なぜ今エンジニアが **AI駆動開発** を身につけるべきか腹落ちさせる
- 全員の手元で **Claude Code** が起動し、**リポジトリを説明させられる** 状態を作る
- 完成形 (**Issue駆動開発**) のデモを先に見せ、2ヶ月のゴールを共有する

エンジニア単価の二極化

- AIを使いこなすエンジニア → 単価 **急騰** (1人で3人分の成果)
- 従来型のエンジニア → 単価 下落 (代替可能な業務から淘汰)

「経験年数」「保有スキル」だけでは戦えない時代。

AIを使いこなし、高付加価値な開発に集中できる人材へ。

AI駆動開発とは

「自分でコードを書く」から
「AIに実装させ、人は判断・検証する」へ。

ツール全体像

ターミナル → Git → GitHub → Claude Code

(ターミナル統合型AIエージェント：読む・書く・実行する・自分で直す)

セキュリティ（最重要）

- 社外秘コード・顧客データの扱いは社内ルールを確認
- APIキー・トークンは **コードに書かない／Gitに上げない**
- 何をAIに送ってよいかを必ず確認する

ワークショップ (6h)

1. **環境構築** : ターミナル / Git / Node.js / GitHubアカウント・SSH / Claude Code
2. **動作確認** : サンプルリポジトリを clone → `claude` 起動 → 「このプロジェクトを説明して」
3. アプリを起動して動作確認、チェックリスト消化

⚠ Windowsは **WSL2** 推奨。SSH鍵のGitHub登録まで必ず疎通確認。

回のゴール

自分のマシンで **Claude Code** が起動し、
任意のリポジトリを読み込ませて **説明させられる**。

OJT課題：自分の実務リポジトリでClaude Codeを起動・構成説明させてメモ